健康を「投資」に変える仕組みと導入事例

中 克宣

株式会社インテグリティ・ヘルスケア ウェルビーイング事業部 事業部長

Integrity Healthcare

「3つの問い」を踏まえ、現場をどう回すか

第1部・武藤の講演から受け取った、3つの問い

問い①

見つけた後の「行動」まで、
どう届けるか

問い②

AIに任せられることは任せ、
人が寄り添う時間を
どうつくるか

問い③

社員が「自分ごと」として、
続けられる環境を
どうつくるか

第2部では実践編として、人事の皆さまの声を踏まえながら
健康を「投資」に変える仕組みについてお話ししていきます

今も、2040年も…　人の課題は「採る」だけでは解決しない



採用が追いつかない、
人が足りない



採用しても定着しない



人はいても、休職や不調で
力を出せない場合がある

さらに2040年へ向け、仕事の中身が変わり、異動や学び直しで役割が変わる人も増えていく

だから、倒れる前に「今いる人」が力を出し続けられる仕組みを

健診で「見つかっていた」のに、届いていなかった

ご相談者

全国展開の食品加工・販売会社（従業員数 約3,000名）
人事部 健康推進課 課長 / 50代男性

背景と課題認識

- 40代社員が心筋梗塞で**倒れて長期休職**に。振り返ってはじめて、健康診断で血圧が200あったことを確認。
- その後も**40代〜50代の社員の突発的な離脱が増加傾向**に。
- 担当者の人数も少なく、健診後のフォローアップまで手が回らない。

課題

✓ **高リスク者をフォローする会社の仕組みがない**
✓ **突然の休職・離職が発生している**



健診で見つかる人は6割。でも、受診も治療も「続けにくい」

59%

定期健診の有所見者率 *1

37%

二次検査の未受診率 *2

40%

通院治療中*3

働きながら有給を使って
通院している人

*1：出典：厚生労働省「労働衛生のしおり」（令和6年度版）
*2：出典：日本ベーリンガーインゲルハイム、日本イーライリリー　プレスリリース　2023年10月
*3：出典：平成25年　厚生労働省「国民生活基礎調査」

一方、企業側では：健診後フォローの管理業務において、担当者への依存が大きい



課題ポイント

- 紙などアナログな管理のため、分析・対策に手間がかかる
- 健診結果回収・状況把握ができていない

- 産業医が多忙で生活習慣病対応の時間が取りにくい
- 従業員個別に受診勧奨する必要があり、煩雑

- 受診状況の把握が困難/できない
  *把握の必要あり

3つの問いへの、私たちの答え

問い①

見つけた後の「行動」まで、
どう届けるか

▼

見つけた後も、
途切れずにフォローを続ける

健診フローの自動化

問い②

AIに任せられることは任せ、
人が寄り添う時間をどうつくるか

▼

声かけはAIに任せ、
人は寄り添いに集中する

AIフォローアップ

問い③

社員が「自分ごと」として、
続けられる環境をどうつくるか

▼

受診・治療のハードルを下げ、
自分で続けられるようにする

オンライン診療

この3つを、ひとつの仕組みで実現するのが 「スマートワンヘルス」 です

スマートワンヘルスとは

従業員・企業/健保担当者(産業医を含む)・医療従事者の三者をつないだ、デジタル医療のプラットフォームです。



企業・健保 ご担当者
(・産業医)

Smart One Health

健診結果　健康データ



医療機関・薬局



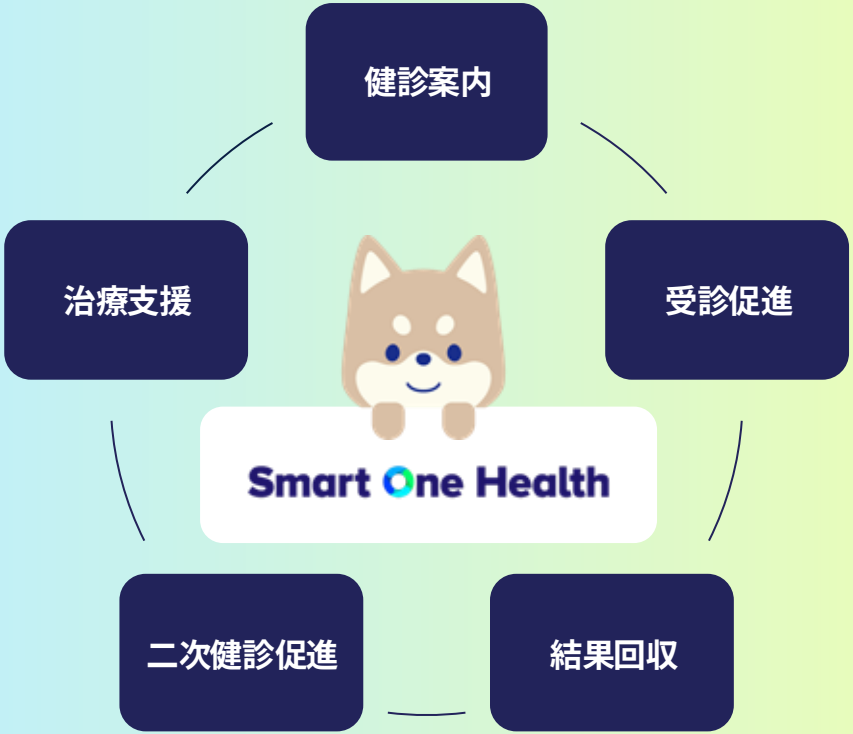
従業員の方

健診関連フローの自動化

見つけた後も、途切れずにフォローを続ける

企業のご担当者が最初の設定（対象者・スケジュールを登録）をすると、あとは自動で稼働します。
企業からのタッチポイントを、スマワンが自動かつ従業員個別に創出します。

- **スマワンが各タッチポイントで各対象者（従業員・管理者・産業医）へ通知を送信**
- **進捗把握ややりとりはプラットフォーム内で完結**



AIフォローアップ：声かけはAIに任せ、人は寄り添いに集中する

生成AIを活用し、従業員に行動変容を起こすような文章生成、受診勧奨案内を自動化。
担当者の皆様の業務を削減しながら、従業員の行動を促進します。



AI受診勧奨

AIが管理者の意図を汲んで受診勧奨の文章を生成。勧奨回数に応じて文面も自動で変更できます。



管理状況の可視化

受診勧奨の回答状況は、管理者ダッシュボードからの確認が可能です。



個別チャット

受診勧奨を行った従業員に対し、個別チャットでも連絡が可能です。

事例紹介：担当者業務を90%以上削減

90%

以上

B社実績

健診データの収集/可視化業務
業務時間94▒削減

受診勧奨/受診状況の確認
業務時間92▒削減

※工数削減の効果は業務範囲、拠点数、その他の運用方法等によって変動します。(従業員数50名での事例)

受診・治療継続のハードルを下げる「オンライン診療」

予約からお薬の受け取りまでを移動時間ゼロで完結。従業員の時間を奪うことなく、受診や治療を後押しします。管理担当者様は管理画面から受診実績を把握でき、従業員の受診率向上と企業の健康管理・福利厚生の充実に貢献します。



予約

最短当日、365日予約可能
（毎日7時～22時まで対応）



診療・服薬指導

隙間時間に医師の診療・
薬局の服薬指導を受診可能



お薬の受け取り

自宅ポストへの配達
（近隣薬局での対面受取も可）



受診実績管理

健康管理ご担当者様は
管理画面から受診実績を確認

オンラインなら、通院にかかる所要時間を大幅に短縮可能

オンライン診療では、受診場所や時間帯を柔軟に調整しつつ、所要時間を抑えながら受診が可能です。

	対面診療	オンライン診療	memo
受診場所	**病院・クリニック**	**自宅・職場など**	待合室での感染症リスクを避けられる
受診日時	**平日の日中が中心**	**365日 7時〜22時**	予約制だが当日の緊急予約も可能
所要時間（合計）	**85分**	**20分**	
① 移動	30分	0分	
② 受付・待合室	15分	7分	混雑状況により数分の待機時間が発生
③ 診察	10分	10分	予約時間に医師からビデオ通話
④ 会計待ち	10分	0分	事前登録のクレジットカードにて支払
⑤ 薬局/服薬指導	20分	3分	薬は自宅への配送に対応。診察終了後、近隣の薬局で受け取ることも可能

* 所要時間は目安です

事例：カッパ・クリエイト株式会社

課題

- 多店舗展開とシフト制勤務を前提とした、従業員が必要なタイミングで健診・二次検診を受診できる環境の構築
- 健康診断結果のデジタル集約と、高リスク者へのタイムリーなフォローアップ体制の整備

解決策

- 健診結果のデジタル集約・一元管理と、時間的制約が少ないオンライン診療の環境（スマートワンヘルス）を導入
- 全社員会議やアンケートを通じて社員と問題意識を共有し、一体的に施策を推進

効果

- 健康課題を早期に可視化・把握し、対策を講じる基盤を整備。全社員の95%が施策に賛同し、約1ヶ月という短期間でシステムのインストール・運用準備が完了
- 健康についてオープンに語れる風土が生まれ、モチベーションや安心感の向上にも貢献



私たちの目指すもの

従業員の「自己健康管理」で休職・離職をゼロに

- 健康リスクを「自分ごと」として理解
- 健康データ(PHR)を自発的に記録・活用
- 受診・治療を自ら選択し継続

機能マップ / 今後の開発予定

リリース済み　今秋リリース予定　来春リリース予定　リリース時期未定

フィジカルとメンタルの両面から担当者の実務を総合的にサポートするため、各フェーズの機能を順次展開いたします。

フィジカル（健診）

①準備	②受付	③登録	④判定	⑤受診/診療
従業員管理	予約調整	結果管理	就業判定	受診勧奨
権限設定	予約管理	紙結果取込	労基署報告	二次検査管理
休復職管理				オンライン診療
判定基準設定				受診実績

メンタル（ストレスチェック）

①準備	②受検	③登録	④判定	⑤面談/診療
従業員管理	Web受検(57項目)	結果管理	受検者フィードバック	オンライン診療
権限設定	Web受検(80項目)	紙結果取込	高ストレス者抽出	受診実績
休復職管理	設問追加		労基署報告	面談管理
	多言語対応		集団分析	面談記録
				休復職支援

ダッシュボード

経年変化グラフ

クロス分析

ご清聴ありがとうございました



スマートワンヘルスについて
さらに詳しい情報を聞きたい方はこちら
[面談予約]

Smart One Health